山の手七福神[2013/1/13]

新年の定番町歩きに七福神巡りがあります。東京では色々な地域の七福神巡りがありますが今年は一人で地元の山の手七福神を回ってみました。私が最後に山の手七福神を回ったのは2010年の1月3日。約3年ぶりです。1月の三連休の真ん中の13日、晴れて気持ちの良い日曜の10時半ころ、恵比寿尊から始めました。目黒不動の境内のすぐ前、池の囲いにあるこの看板が目印です。

この日は、ここからこの看板の順に七福神を巡りました。まずは恵比寿様から。恵比寿様はこの看板横、石碑の向こうの橋を渡ったところにあるお社です。

橋を渡ってお参り、手を合わせます。蛇腹のゲートの向こう、三福神の文字の大きな提灯の下に恵比寿様の姿が。

二番目の弁財天様へ移動です。山手通りまで戻り、少々北上、5分も歩けばこの看板が。

ここを曲がって進むと住宅に囲まれて蟠竜寺さんが見えてきます。蟠竜寺の弁財天様は石窟の中です。石窟は本堂の右側奥に。

3年前は、まだ三が日のお参りだったので、さほど広くないこのところに大勢の方がいて、列についたのですが、1月の半ばとなれば、日曜のこの時間でも私一人。誰に遠慮することもなくゆっくりとお参りできました。

次は大黒天様。大円寺さんに移動です。太鼓橋にて目黒川を渡り、雅叙園の前から行人坂へ。坂を少し上ると到着です。

境内に入れば、正面に大黒天様です。

手を合わせ3つ目のお参り終了です。行人坂に戻り、目黒駅まできつい坂を上っていきます。駅横を抜けて、目黒通りを白金方面へ。妙円寺さんへは通りから南に坂を下って行くのですが、その曲がり角は見過ごしてしまいがちです。特にこの日はその曲がり角のところで道路工事をしていたので、余計にわかりにくかったです。でもここにも看板があって、助かりました。この看板が無け

れば確実に通り過ぎていました。看板にあるように、妙円寺では福禄寿様と寿老人様がお参りできます。

ここを右に曲がって50mくらい坂を進み、本堂の右のお社にお参り。

ここでは靴を脱いでお参り。階段を上がり中に入ると、福禄寿様、寿老人様が並んでいらっしゃいました。（写真は撮影できません。）こちらで2つのお参りとなるので山の手七福神巡りは7か所でなく、6か所で終了となります。あと2か所です。

次は布袋尊様の瑞聖寺さん。目黒通りに戻ってさらに東へ移動。白金台駅を過ぎると間もなく右に立派な石碑が見えました。ここを右折して進み、木の門をくぐって境内へ。

大きなお堂が見えてきます。布袋尊様はこのお堂の向かって右側です。

左側の階段を上ってお堂を横切って一番奥の布袋尊様に手を合わせます。ここに看板があってわかりやすいです。

残るは毘沙門天様。目黒通りをさらに東へ。八芳園、都ホテルを通り過ぎ右折、桜田通りに出るとすぐに覺林寺です。ここでは七福神看板が見当たりません。でも門をくぐればすぐに毘沙門様は見つかります。

小さな祠に手を合わせ七福神巡り完了しました。まだ11時50分でした。ご朱印をもらうわけでもなかったので、1時間半弱で回れました。

山の手七福神は6か所がコンパクトな位置関係で時間をかけずに回ることが可能です。寒さが厳しい日でしたが、良い日に回りました。次の日は大雪になりましたから。

祐天寺で文化財案内板をみて歩く。[2013/2/14]

確定申告の季節です。14日、どんよりと曇った寒い日に税務署に行ってきました。14日でまだ人は少ないかと思っていたのですが、着いた午前10時頃、もう窓口には5～6人が並んでいて少し驚きました。それでも対応は迅速で一人に費やす時間はごくわずか、数分待っただけで私も提出。何日もかかって書いた申告書ですが、あっという間に手続き終了、まずは今年もひと安心。税務署の帰りにすぐ近くの祐天寺にちょっと寄り道です。

駒沢通り沿いの門の前、玉垣の内側に案内板が3つ並んでいます。

祐天上人の説明がされたもの、祐天寺の説明がされたもの、祐海上人坐像の説明がされたものの3つです。都の指定だと黒い板、区の場合はシルバーの板みたいです。案内板によると、祐天寺は五代将軍綱吉と生母桂昌院と係わりの深かった祐天上人の遺言で高弟の祐海上人が享保の時代に創建したということです。さっそく歴代の徳川家の中でもエピソード豊富な二人の名前が、そして八代吉宗の名前もでています。本堂には綱吉の息女松姫寄進、法橋石見作の祐天上人座像と弟子たちの発願で同じ法橋石見作の祐海上人坐像が安置されているとあります。

門をくぐると仁王門です。

赤いお姿の仁王さんが金網の奥で睨みを利かせます。

鳥除けの金網越しのためはっきり写せませんでしたが、迫力のあるお姿です。（仁王像背面の持国天、増長天像はまったく、うまく撮れませんでした。）仁王門の前にあるのがこの案内板です。仁王門の説明です。

綱吉の息女竹姫寄進により享保20年の建立、屋根は昭和6年に茅葺から現在のようにふきかえ、迫力の仁王像は法橋石見作、背面の持国天、増長天像は運慶作と。幾度かの改修はあるものの、ほぼ創建当初の姿を残しているとあります。

竹姫寄進との説明の案内板はもうひとつありました。阿弥陀堂です。

享保9年の上棟（仁王門より10年程早い）とあり、また仁王門同様に、ほぼ当時の姿を伝えていると。ともに非常に貴重な文化財ですね。

境内をもう少し歩くと、鐘楼にはこんな案内板が。

現在でも正午に撞かれる大きな鐘は1200kg、六代家宣の17回忌追善のためにその正室、天英院の寄進と。自身の将軍就任を後押したとされる天英院のためなら吉宗も力添えを惜しまなかったはず、さぞ盛大な供養が行われたのでしょう。

鐘楼の隣にはかさね塚が。歌舞伎や怪談で有名な、かさねが淵のモデルの累一族の霊を弔っているとのことです。

境内には、さらに仏足石があったり、火消関係の石碑が幾つかあったり、沈没した廻船の供養塔があったりで、石碑や案内板を見て歩いていたら、あっという間に小一時間経過。税務署にいた時間の何倍も費やしてしまいました。

ちょっと見て回っただけで、徳川家とは、かなり親密な関係があったことがうかがえ、その繁栄ぶりも想像できます。江戸の中心からは遠く離れた場所ですが、八代吉宗だけは大好きなお鷹場が近くて足を運びやすい場所だったのかもしれません。祐天寺で満開の桜が見られるまであと約1ヵ月半。まだまだ寒い日々が続きそうです。

見納めの風景（東横線）[2013/3/15]

東横線渋谷駅が3月16日から地下駅に。慣れ親しんだ渋谷駅や高架を走る東横線の姿を惜しんで集まった鉄道ファンたちの様子はさまざまなニュース等でも取り上げられました。15日の金曜は夕方から渋谷駅近くで打ち合わせがあり、その会場に行く途中に私も駅周辺の異様な雰囲気に乗せられて、俄か鉄道ファンとなり、この日までしか見る事のできない東横線の様子を観察することに。まずは、東口の歩道橋から同じレベルに見える駅のホームの様子です。

　ホームに電車が入ってきただけなのですが、次の日からはもう見られない風景です。
ホームでも入ってくる電車を撮影している人が見えます。

　場所を移して高架を走る東横線も撮影しました。まずは西側から。

高架下をくぐって次は東側から。

ずっと東横線を見ていると打ち合わせに遅れるので、これくらいにしました。駅周辺はどこに行ってもカメラを持った人々で、ガヤガヤとした雰囲気でした。

この日の帰宅は午後10時ころ、東横線を利用したので、ホームの様子も写真に納めようとしたのですが、多くの乗客（私のような俄かファンを含む）、本当の鉄道ファン、駅員さん、警備員さんでごった返す状況の中、慌てて撮った写真は全部ぼやけたものになってしまいました。

桜くらべ[2013/03/29]

あまりに急すぎる桜開花宣言でした。観測史上2番目に早いという今年の開花。目黒川周辺は、おそらく鑑賞にはベストであろ

う23日、24日の土日は大変な人出でした。そんな週末に桜の名所をさっくりと歩いてみました。まずは、我が家からは一番近い蛇崩れ緑道の桜です。

ここの桜は緑道の頭上を屋根のように覆っています。咲いているときもそうなのですが、散り始めたときに花びらが舞い落ちる中を歩くのは風情たっぷりです。この時期は通勤通学のため中目黒駅へ向かう時、この桜の下を歩くことが楽しみになっている人も多いのでしょう。次は菅刈公園。ここの桜は木自体が立派です。

芝生の広場に沿った桜が誇らしげです。こんなに華やかに咲いた桜ですが。私のようにカメラ持参の人を含め、全体的に観賞する人は午前9時ころという時間帯のためか、まだ少めです。

和庭園では色の濃い紅枝垂れ桜の向こうにソメイヨシノが見えて、そのコントラストが楽しめました。

菅刈公園の近くの西郷山公園です。ここは敷物による場所取りが可能なのですね、同時刻、すでに準備が進んでいます。ソメイ

ヨシノの手前にすでに緑色になっている木が早咲きの河津桜です。

この日一番輝いていた木はソメイヨシノではなくピンクの花をつけたこの木でした。

花見の場所取りも一番人気です。木の種類を知りたかったのです、この女性たちを押しのけて名札や説明板を確認する勇気はありません。

少し時間をかけて祐天寺に移動です。ここはさすがに趣きが違います。

満開の境内は仁王門を背にしても、阿弥陀堂、鐘つき堂など、どこを見ても絵になります。よく見るとその桜の木の上で花を啄ばむ鳥の姿が。

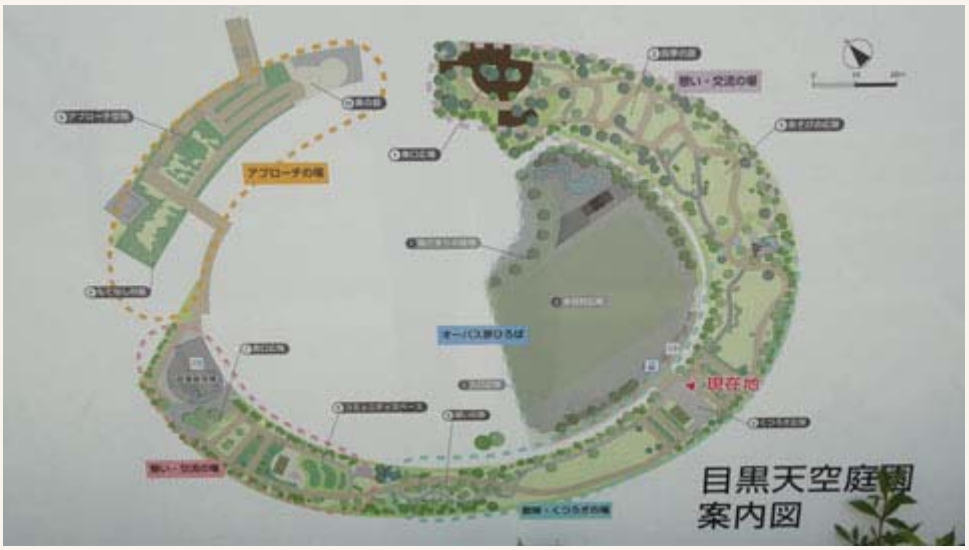
数匹同じ種類の鳥がいました。メジロや鶯よりも数倍の大きさの鳥です。花がよいのでしょうか、その蜜がお好みなのでしょうか？しかしながら、桜の花を味わえるのは人も鳥も一年のうち、ほんの数日だけです。

この日は午前11時から友人たちと花見の約束をしておりました。重厚な雰囲気の場所から一気に世俗的な楽しみを行うところにまた移動です。祐天寺から途中で酒屋さんを見つけ飲み物とおつまみを購入して、集合場所の区民センターへと向かいます。到着後、センター横の橋の上から南北の桜です。

この時期、この川に桜を観賞する船がでるという話を聞きました。水上から見上げる桜はどのようなものなのでしょうか？

ピカピカの天空公園[2013/04/23]

大橋ジャンクション上に天空公園が3月末に開園したので、さっそくのぞいてみました。氷川橋近くのエレベーターで公園へ。エレベーターを降りて案内図で状況確認。



平日だったので人はまばらです。まずは一番高い部分まで歩いていきます。

展望台があって西側に眺望が広がります。案内によれば状況が整えば富士山まで見えるらしいです。北側をのぞけばフェンス越しに高速道路です。ジャンクションの上ですから、今いる公園の下に入ってくる車、出ていく車が絶えずあるわけです。

静かな公園に耳障りにならない程度に高速道路の音が響きます。振り向けば出来上がったばかりの綺麗な公園の風景です。

木々も草花がこれから成長していって雰囲気は月日とともに変わっていくのでしょう。当たり前ですが、植物たちだけでなく、なににもかもが新品でピカピカ。ベンチ、手すり、休憩所の屋根もフェンスも。新しい物は気持ちが良いです。

ところで、この天空公園は隣接する2つの高層マンションとつながっているようなのですが、その高層マンションは天空公園からさらに天空にそびえています。

マンションから天空公園を見下ろすと、どんな景色なのでしょうか？公園を下って、高速道路の下を歩いて進めばアプローチの場というところにでます。普通はこちらからアプローチして公園に上っていくのでしょうね。

アプローチの場では、さきほど足元に見えた高速道路が頭上です。土木技術の素晴らしさに少々感激しながら見上げます。

もう一度公園まで上がっていって、来た時のエレベーターで地上に降ります。ジャンクションの内側には人工芝の広場です。ミニサッカーができるみたいです。緑の足元も綺麗ですが、周りにそびえるコンクリートの壁が迫力あります。この上にあの公園があるわけです。ここでサッカーをすればボールが外に出ちゃうことはないですね。

コンクリートの壁の外に出るとジャンクションはこんな形。この景色はいままでにも見られたものですが、その上に憩いの場ができたということです。

仁王像[2013/05/30]

梅雨がもうすぐそこまで来ているという5月の後半、週明けの雨が上がった後、皐月晴れを楽しんでくださいとばかりの晴天続き。良い天気に誘われて、近くの蛇崩れ緑道をお散歩。日が傾くまでにはまだまだという時間帯、強い日差しを気にしながら緑道を上流に向かってマイペース歩き。30分ほどで世田谷観音の近くまで来てしまいました。ここまで来たら覗いていきます。

大きな提灯の両側で睨みを利かす仁王像ですが、柱にこんな説明がありました。「平安後期12世紀後半　都内最古の仁王像」

平安時代、12世紀後半。いい国つくろう鎌倉幕府（1192年）より前ということですか。その都内最古の仁王像の写真です。

高さ2m70cmほど、中央（京都近辺）で製作されたものとのこと。すでに八百年以上睨みを利かせているのですね。

平安後期作という説明を見て、私がよく立ち寄る、祐天寺の仁王像は江戸時代作だったことを思いだし、後日、年代を確かめに行きました。

仁王門の前にある説明書きに享保20年（1735年）法橋石見作とあります。そうすると世田谷観音の仁王像からは約650年後。その仁王像の写真です。

次にもう一か所、目黒不動の仁王門です。

目黒不動の仁王門は戦後の建築です。空襲で境内は焼きつくされ、本堂同様戦後に再建されたということで祐天寺にあった文化財看板は見当たりません。調べてみると昭和30年代前半に地元の人たちの熱意で仁王像及び仁王門が再建されたとのこと。

仁王像は当時区内在住の著名な彫刻家の製作でした。

乗り物はなにも使わず、ただ散歩に出ただけで平安時代、江戸時代、昭和作の仁王像を見て回れました。平安の昔に製作していた仁王像、江戸時代製作の仁王像。そして戦後にも仁王像が製作されているということはとてつもなく長い期間、その信仰が続いているということ、そして像を作るという技術が伝承されているということです。お参りの時、その強い目線も意識せず、何気なく間を通り抜ける仁王像ですが、あらためて考えると日本文化のすごさを感じてしまいます。

日本民芸館を見学[2013/6/27]

梅雨入りが早かった今年、当初はカラ梅雨ムードだったのが6月半ばの台風接近から雨量も増え、九州や北陸では被害がでたとのこと。雨続きから久しぶりに青空がのぞめた日曜の昼、駒場方面にお散歩。雨を気にせずに出歩けるのは何日ぶりだろう。前日の土曜も、にわか雨にやられたばかりでした。

駒場まで足をのばすのは3月以来。この日は何回かその前を通ったことはあるけど中には入ったことのない日本民芸館を覗いてみるつもりで出かけました。広大な東京大学の敷地を迂回するような駒場の道路、目的地まですんなりとたどり着くことが難しいのですが、この日もかなり遠回りしてしまいました。遠回りはしたものの、晴れた日の昼ですが予報ほど高温にもならず、快適なお散歩です。日本民芸館の案内板が閑静な住宅街の一角に立っています。

この日、駒場方面に出かけ目的はこの案内板にある 「つきしま」と 「かるかや」です。解説によると「つきしま」は絵巻、「かるかや」は絵入本でともに室町時代ものと。江戸時代の絵草紙などは展示されたものを目にする機会はありましたが、室町時代となるとどのようなものなのでしょう。案内板とは道路の反対側で民芸館の本館（登録有形文化財）が雰囲気ある姿で迎えてくれます。

靴をスリッパに履き替えて受付に。入館料を払って資料をいただき、「二階の展示からどうぞ」と見学順序を案内され、階段を上って見学開始。日曜の正午頃、二十人くらいの見学者がいらっしゃいました。

思ったよりも中の展示室は広く、展示物も豊富。「つきしま　まるかや」関連の展示は他の博物館や寺院の宝物殿で目にする書物や屏風絵とは感じが違い、変わった雰囲気が漂います。艶やかとか豪華とかでなく、ほのぼのというか素朴というか、面白い展示です。出品目録によれば今後2回展示物に場面替、差替があるそうなので、替わった頃また覗きましょうか。この日は絵巻、絵本の類の展示を見るつもりで入ったのですが、磁器、陶器、染色の展示が充実していました。なるほど民芸館です。この展示物を理解して味わうにはかなり勉強が必要だなと考えながら小一時間見学。器や道具に興味がある方ならば半日くらいあっという間に過ぎてしまうのではないでしょうか。

本館を出ると向かいには西館の長屋門が見えます。こちらも立派なお姿です。この長屋門も登録有形文化財だそうです。栃木県で明治初期に建てられたものを移築したと資料にありました。この日、西館は開館していないので門を眺めるだけです。月に数回は西館も見学できるらしいので、今度はこちらも一緒に見られるときに来よう。

館内から外にでるとさすがに少し暑さを感じます。そこですぐ近くの駒場公園に寄って木陰で涼んでから帰ることにしました。ベンチで腰かけて、しばし都会で森林浴です。もう少し風があったらもっと気持ちよかったのですけど。それでも文庫本でも持ってきてここで数時間過ごすのもよかったなと後悔するくらいの快適さでした。

祭日の世田谷公園[2013/07/17]

早々と梅雨が明け、とたんに連続の猛暑日。今年は夏本番が一気にやってきました。海の日が絡む三連休も良い天気で連日、早い時間から30度オーバーとなりました。お仕事があれば休み関係なしの我々自営業者、三連休の3日目の15日は、たまったものを暑い朝からひとつずつ片付けていました。そして切りの良いところで気分転換にお散歩に。午後になればさらに気温は上がるはず、今のうちにと午前11時頃、木陰を求めて世田谷公園をひと回りです。

世田谷公園の1周＝1．1kmの周回コースには、昼のこの時間でもジョギングやウォーキングを楽しむ人がたくさんいました。少し歩いただけでクタクタの私は日陰を選びながらのゆっくり散歩。公園の北側は野球場になっていますが、やはり休日です、すでに2面ともプレーが始まっています。

野球場の隣ではテニスを楽しむ人たちもいて、皆さんお元気です。この暑い中でもキチンと対策をとれば熱中症などならず、スポーツを楽しむことができるのですね。

暑いといえば、世田谷公園名物のSLです。

三連休は続けて運行のミニSLですが、石炭を燃料に走るのは夏の時期、キツイのではないでしょうか。それでも家族連れが順番待ちになる人気ぶり、子供たちの喜ぶ顔は係りの方の暑さをいくらか減じてくれるのかもしれません。

実際に動いて楽しませてくれるミニSLの他に、世田谷公園にはD51の展示もあります。こちらはミニではなく実際のもの。大きくて迫力あります。

20m^{3}の水と8tの石炭を積んで運行していたのですね。製造は昭和13年になっています。ミニSLも同じように石炭と水で子供たちを運んでいるのですね。

公園のほぼ中央には大きな噴水があります。水を勢いよく吹き上げる姿には涼しさが感じられます。仕事に戻るのはここで、もう少し涼しさを感じてからにします。

目青不動[2013/08/28]

目黒、目白、目赤、目青、目黄。東京の五色不動です。目黒不動にはちょくちょく訪れる私ですが、他四色に関しては、とある散歩会に参加した折に案内されてお参りした三ノ輪の目黄不動のみでした。位置からいけば我が家から一番近いのは目黒か目青。偶然に世田谷線の線路沿いに目青不動の門を見つけたので、そのままお参り。右の石柱には目青の文字があります。左の石柱には最勝寺数学院。（逆光になる空の明るさにスマフォ撮影では文字まではうまく写りませんでした。）

門の向こう、駐車スペースを進んだ突き当りが不動堂。正午を回ったばかりの時間帯、この暑さに境内に人影はありませんでした。

不動堂でお参り。このところ、お願いすることは健康。とにかく毎日暑いので。

不動堂に向かって左手には数学院の本堂です。

石畳の通路に、深い緑。蝉の声が響きます。蝉の声が聞けるのもあと半月くらいかな。朝方のお参りだったら蝉の声ももっと味わい深く感じたでしょうが、正午すぎでは、とにかく暑すぎて。日陰がちょっとうれしい。しばらく雰囲気を楽しみましょうか。

不動堂の前まで戻り、見上げればキャロットタワー。まさに三軒茶屋の街中なんですね。

高架が・・・[2013/08/31]

８月３１日の土曜日に、渋谷区東の明治通りから代官山方面に歩いていると不意にいつもと違う感じがしました。東横線のガード下を通ったときに上に空が見えた気がしたのです。通り過ぎてから一旦戻って確認すると勘違いじゃなく確かに底が半分ない、空だ。

東横線の解体だ。交通量の多い通りですから、夜間に通行規制をしながら少しずつ解体しているのでしょう。代官山側の半分だけ無くなっています。この時は下から見上げないと気がつかない状態。通り過ぎて振り返ると普通にガードはあります。

週が変わり月曜の朝（９月２日）、代官山の方から見た時の状況です。真下から見ると空が大きくなっています。土曜と日曜の夜間で仕事が進んでいました。この分だとこのガードが見られなくなるのもすぐだと感じました。なくなる前に写真を撮っておこう。

そして次にここを通ったのが木曜日（９月５日）。普通こんなに頻繁にこの道を通ることはないのですが、解体の進捗が気になるので。この日、明治通りから見ると変化なしに見えます。

しかし代官山側から見るともう代官山側が半分まったくない。

２日後の土曜日（９月７日）に通ると残った明治通り側も、もうありません。

気がつけばあっという間に解体されちゃいました。おそらく毎晩、きっちりと計画され、綿密な準備のもとに大きな機材と大勢の工事関係者が御苦労されたのでしょう。さすがに夜間工事の様子を見に来るまでの好奇心は持ちませんでしたが。

今月の初めにはまだ存在した構造物がもうないのですが、気にせずに通り過ぎればもう違和感はありません。街はこうやって日々変化していくのですね。

（9月2日）

（9月19日）

秋本番に[2013/10/18]

残暑どころでない今年の暑さ。10月半ばになって30度を超す日があるなんて。そんな暑さも例の台風で一変、一気に秋の気配となりました。その大きな台風、東京は早朝に大雨に続いての大風。交通機関に大きな影響がでて、移動がキビシイ朝になってしまいました。大雨で伊豆大島ではたくさんの人が亡くなり、未だに行方不明の方の多数。南の方の海水温はまだまだ高く、さらに新しい台風が発生しているというニュース。もう上陸や接近は勘弁願います。

台風の接近で思い出したのが林試の森でこの前見た看板。ユーカリの木が台風の風で倒れたという看板です。台風接近の2日後、林試の森まで散歩の足を伸ばしてみました。

ユーカリの倒木とその横にある説明です。平成23年9月に上陸した台風15号は戦後最大級のもので、その風の影響でユーカリの大木が倒れてしまったとあります。恥ずかしながらたった2年前にそんな大きな台風の上陸があったなんてもう忘れていました。今年の台風26号が過去10年で最大級の威力という報道だったのですが、今回の記憶もすぐに薄れてしまうとすれば恐ろしいことなのかもしれません。本当に危険が身に迫った時に安易に考えてしまいそうです。

林試の森をざっと歩いて回ったのですが今回の26号台風ではここまでのダメージを受けた木は見当たりませんでした。伐採作業をされていたのでその作業が台風の影響で発生したのかもしれませんが。

このくらいに樹木が多いところに来ると気温が高い日が続いていても秋は確実にやってきているのが感じられます。これからは、さらに木々はその姿を変えることで秋の深まりを見せつけてくれるのでしょう。

ところで、カレンダー的には実際の暑さ寒さとは関係なく秋の準備はしっかりと進んでいます。林試の森への散歩の道すがら確認した秋恒例の行事です。

目黒不動の仁王門にかかった甘藷まつりの幕。10月の縁日は甘藷まつりです。（青木昆陽さんのお墓はお不動さんの北側にあります。）甘藷まつりよりちょっと早いのがお隣の、らかんまつり。今年は20日の日曜日なのですね。

そして大鳥神社です。11月になれば酉の市。今年は3日、15日、27日と3回あります、火事には気をつけましょう。

秋の朝倉家庭園[2013/11/28]

目黒年金事務所の前の通りに面白い雰囲気の紅葉を見つけました。

赤、黄、オレンジ、緑が混在した状態。もう少し時間が経過すると向こうの木のように全体的に赤くなるのでしょう。もうこんな時期だとあらためて感じたこの日、坂の上の朝倉家まで足をのばしました。あの庭の秋はどのくらいまで深まっているのだろう？

敷地内に入ると玄関前の大きな木は徐々に赤くなっています。そして両側に菊の花。

住宅に入る前に、まずはお庭に。この日の午後は見学の方がたくさんです。晴天の秋の午後、ここの雰囲気を味わいたいと考えるのは皆さん同じです。

都心ですから京都のお寺のように真っ赤な紅葉とはいきませんが、なかなかの景色です

庭を回りながら、そして建物に入って庭を眺めながら何枚かデジカメ撮影。西に向かって見渡すお庭は午後3時ころ、もろに逆

光なのですが、それはそれで雰囲気があります。

長い夏に加えて訪れの早そうな冬。今年はうっかりしていると味わい深い秋があっという間に終わってしまいそうです。その味わい深い秋を、さがしてみればこんなに身近なところで発見できます。

大橋で高速トンネルの見学

日本地図センターにて大橋ジャンクションの工事現場見学の案内があってさっそく申し込み、参加しました。午後2時半の大橋ジャンクションの集合場所に行くとまだ10分くらい前の時間でしたが、もう参加希望者が20人近く集まっていました。参加者は集合場所から一旦ジャンクション内の一室に移動し、そこで注意事項とプロジェクターを使った高速道路の工事の状況の説明を受けました。そのあとでヘルメットと軍手、説明を聞くためのレシーバーをお借りして工事現場へと向かいました。

246通り沿いの現在は搬入口となっているとの場所から説明を受けながら中へ進入です。

工事現場です。まずは仮説資材や安全看板が目に入ってきます。

見学は246通りの辺りから中目黒方向に向かって進みます。上の案内図のピンク色の部分をジャンクションから、新宿方面より伸びてくる黄色の部分と合流している方向にです。説明を聞きながら進行方向を見る、こんな感じです。

さらに進んで振り返るとこんな感じです。きれいなコンクリートの壁、天井。仮説の配線、配管が長く伸びています。

風の強かったこの日、外よりのトンネル内は快適です。この部分のトンネルは上下2層になっているそうで、歩いているのはその上層のトンネル。ある程度、進んだところで下層のトンネルに下りました。仮説の昇降階段を慎重に降りて行きます。

トンネルひとつ分を降りるのでけっこう長く、何回も折り返して2層目に到着。仮説機材の向こうに2層目のトンネルが奥へと見通せます。

トンネルは奥に若干の下りこう配（傾斜は7%と説明がありました）、案内図のピンクの部分で、ここから黄色の部分との合流部にむかって 見学が進みます。今度は天井がアーチ型で、いわゆるトンネルのイメージ通りです。

向かって左側にある程度の間隔をおいて開口部がありますが、ここは緊急避難時の通路とのこと。地下トンネルですからね。幅は1メートルくらいでしょうか、この通路を利用することになったら大変ですが、こういう機会に覗けるのは幸運です。

「ここから周りがコンクリートから鉄製に変わります。」との説明が。

そして少し進むと合流部分です。振り返って左側が今歩いてきた部分、右が新宿方面から続く案内図では黄色だった部分です。この辺りではふたつのトンネルをひとつにして、さらに大きなトンネルに広げていく工事も行われているのですね。

反対に奥に向かって（中目黒方面にむかって）はこういう状況が臨めます。工事の最前線に少し近づいた感じがあります。周囲のあの部分が無くなって、あそこからあそこまでが残るとか、トンネル自体の大きさがあそこからあそこまでだとか色々と想像されます。まっすぐ行くと五反田で、こっちは用賀方面に伸びて、あっちは新宿方面へつながると。そこを数年後には車がビュンビュン走り抜けていくわけです。

見学はこの地点まで、説明を聞いて折り返しです。

歩いてきたトンネルをジャンクション方向に戻ります。来たときとは方向が反対ですから、今度は緊急通路が右側です。

昇降階段のところまで戻り、そしてさらに進みます。天井部分がいつの間にかフラットに変わり、この辺りは雰囲気が違います。もう少し進むと前方にはシャッターが見えてきました。

少し開けていただいたシャッターの向こうはもうすでに利用されている高速道路です。走っていく車が後方から覗けます。

246通りの真下を渋谷方面から用賀方面へと向かう車です。日本の大動脈の利用に影響を出すことなく、こんな大プロジェクトが日々、着々と進行しているということが肌で感じられた瞬間です。関係の方々は日々緊張されて工事を進めているのですね。

見学はここまで、再度折り返し。昇降階段までもどります。

1層目のトンネルに上がって進入したところまで戻ります。帰るときの方が進入してきたときよりも短く感じるのは自分だけでしょうか。間もなく出口が明るく左側に。

246通りにでて地上に帰還。暮れにきて、大満足の現場見学でした。